

地獄！極楽！別府三十六景



別府大学にマンガの教員として招かれ、湯けむりの地に移り住んだのが2008年。別府は海あり、山近く、温泉はいたるところ…という素晴らしい場所で、大変気に入っており、退職後もしばらくは住み続けさせてもらおうと考えています。そんな泉都の、お気に入りスポットを、拙いスケッチでご紹介いたします。



JR別府駅

特急「ソニック」が停車する鉄道の玄関口。駅前に立つ像は、油屋熊八。日本初のバスガイド付きの観光バスを走らせ、地獄めぐりを企画した別府観光の父です。並んで「足湯」ならぬ「手湯」が設置されています。「べっぷう～、べっぷう～」という、ちょっと力の抜けた駅名アナウンスがのどかで癒されます。



駅前高等温泉

駅前通りにありひときわ目を引きます。ドイツ建築様式の大正風洋館は築90年以上。お風呂は別府らしい地下タイプで、並湯（ぬる湯）と高等湯（あつ湯）があります。2階の大広間は雑魚寝宿泊ができ一泊1600円。（もう少し高い個室もあります）雑魚寝なのでお隣が“いびき症”だったとしても、ご愛嬌。



別府タワー

内藤多仲設計による《タワー六兄弟》の三男坊(名古屋テレビ塔、通天閣、別府タワー、さっぽろテレビ塔、東京タワー、博多ポートタワー)。映画『ゴジラVSスペースゴジラ』にも登場するが、破壊はされず素通りされた過去があります。ネオンサインスポンサーは、サッポロビール→ バナソニック→ 朝日ソーラーと変遷し、現在はアサヒビール。



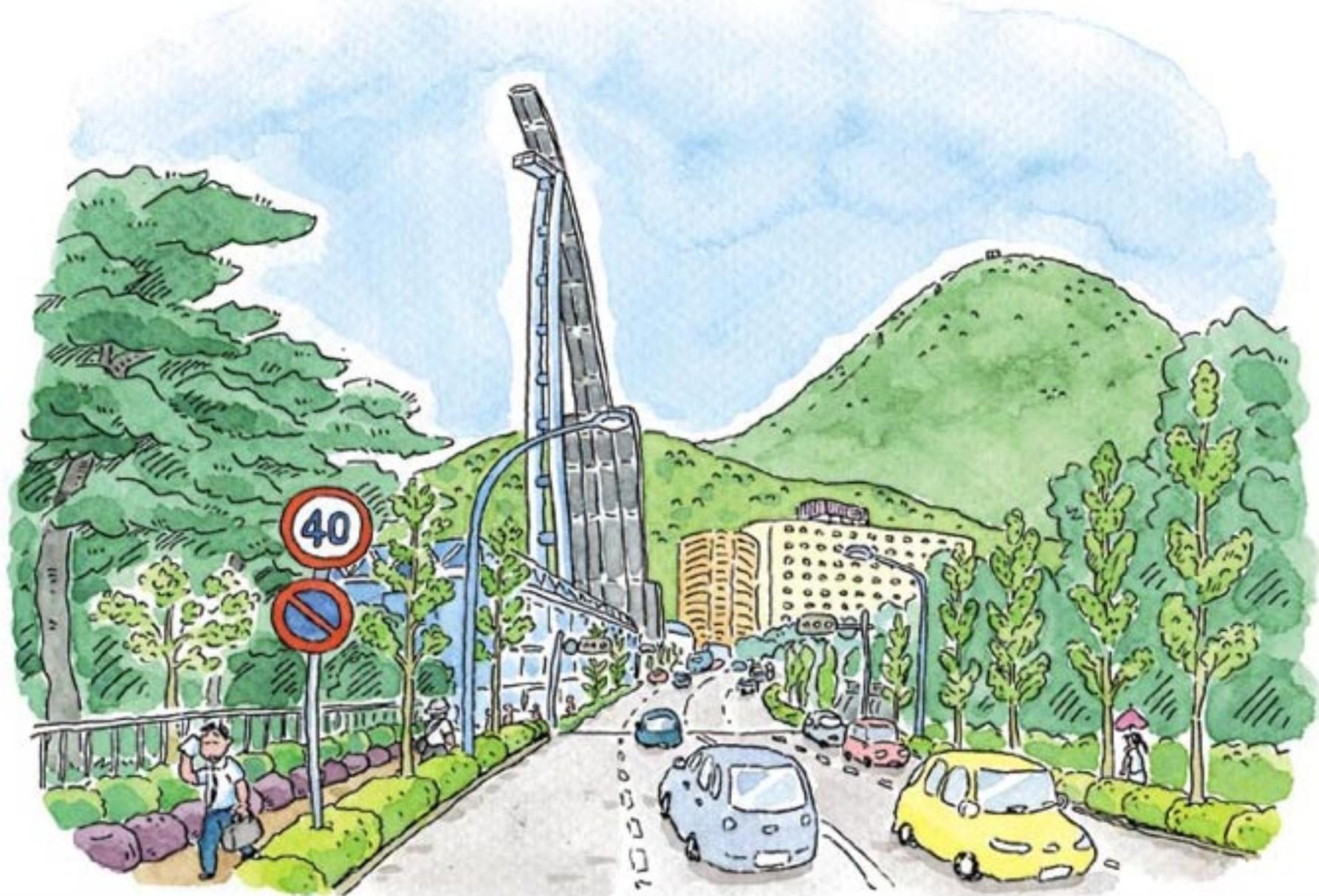
別府市公会堂

昭和3年(1928)に神澤又市郎初代別府市長が発案、吉田鉄郎の設計により建設された歴史的建造物。演劇や講演など幅広く活用されています。近年、正面階段やホールなどを建設当時のデザインに復原し、平成28年(2016年)リニューアルオープン。一時「中央公民館・市民会館」とされていた呼称も「別府市公会堂」に戻されました。



八幡朝見神社

別府の中心的神社。別府八湯温泉まつりのお神輿もここから出発します。拝殿前には「八幡臺」と呼ばれる大舞台があり、別府の市街地が一望できます。この舞台で毎年4月「竹の感謝祭」が開かれ、竹工芸「四海波」を実演制作、奉納されます。「萬太郎清水」というわき水もあり、多くの市民が水汲みに訪れます。



グローバルタワー(B-Con Plaza)

別府国際コンベンションセンター「B-Con Plaza」は富士見通り沿い、別府公園の上にあります。そのシンボルがグローバルタワー。共に大分県出身の建築家・磯崎新の設計です。直径1kmのカーブの中心は別府公園の中央にあります。高速エレベーターで展望室に昇れます。屋根がないので雨天は注意です。



楠港（旧別府港）

「ゆめタウン」裏の港。実は元々の別府港はここにありました。明治4年(1871)開港。瀬戸内航路によって別府が日本一の温泉都市に発展する時の玄関口でした。流川通りが“不夜城”だった時代。その後昭和42年(1967)旅客船の港湾機能は別府国際観光港へ移転。旧港は埋め立てられ「ゆめタウン」が開店するのです。



竹瓦温泉

唐破風造(からはふづくり)の外観は別府温泉のシンボル的存在。二回に大広間があるそうですが、一般には開放されていません。別府の温泉は汲み上げをしないので、地下に湯船がある構造が一般的。ここもそうです。室内砂湯も併設されています。冬至の柚子湯のTVニュースには必ずと言ってよいほど登場します。



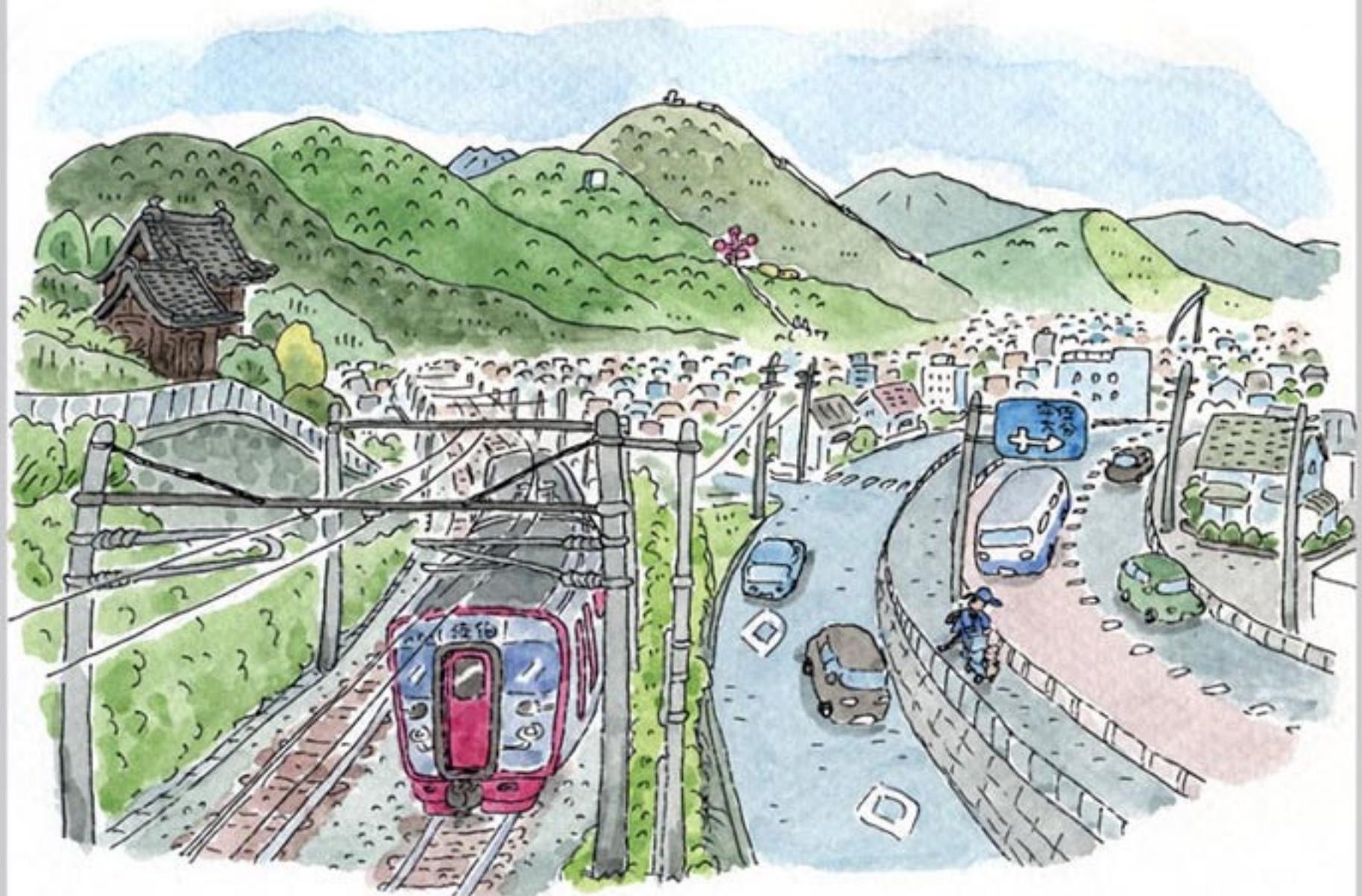
永石温泉

《なげしおんせん》と読みます。前を走るのは永石通り。古くは永石湯（なげしゆ）、握石（にぎいし）温泉、一夜温泉とも呼ばれたそうです。市営の温泉なのでオーバー70の市民は『高齢者優待入浴券』（年間180回無料利用可能）で入浴できます。横には中国烟台市の石で作った湯あがり空間（ポケットパーク）も。



東別府駅の桜

東別府駅は明治44年(1911)に豊州本線(現日豊本線)浜脇停車場として開設されました。当時は浜脇周辺も賑わったエリアだったのです。その後、浜脇駅、東別府駅と改称。平成16年に改修された現在の木造駅舎は当時の面影を残します。春休み中の女子中学生は、大分の駅ビルでショッピングした帰りでしょうか。



浜脇跨線橋

東別府駅近くにあるJR跨線橋からの景色。崇福寺の山門と日豊線。右は新設された狭間、庄内方面へのショートカット道路。遠景にはラクテンチと鶴見岳、扇山。由布岳もチラッと。ピーコンのグローバルタワーまで一望。取材の折「ななつ星」が通ったのですが、ここはやはり日豊線普通列車の顔を立てましょう。



浜脇薬師

健康を願う意味から別府の温泉には薬師如来が祀られています。浜脇薬師如来像は平安時代のもので別府市で最も古い仏像の一つ。8月の薬師祭りは盛大で「風流見立て細工」「花魁道中」など手作り感がチュー楽しい！浜脇温泉や湯都ビア浜脇のあるこの広場は妙にアートしていますが、ボクシングジムもあつたり健康志向。



境川の桜と鯉のぼり

別府のほぼ中央を流れる境川両岸は桜の名所です。桜の時期からGWにかけて、地元の自治会の手で多数の鯉のぼりも飾られ、彩りを添えます。別府では宴会型はあまり見られず、家族の持ち寄りランチ会的なお花見が多いようです。4月には河川敷の遊歩道を経由して山頂を目指す「べっぷ鶴見岳一気登山大会」も開催されます。



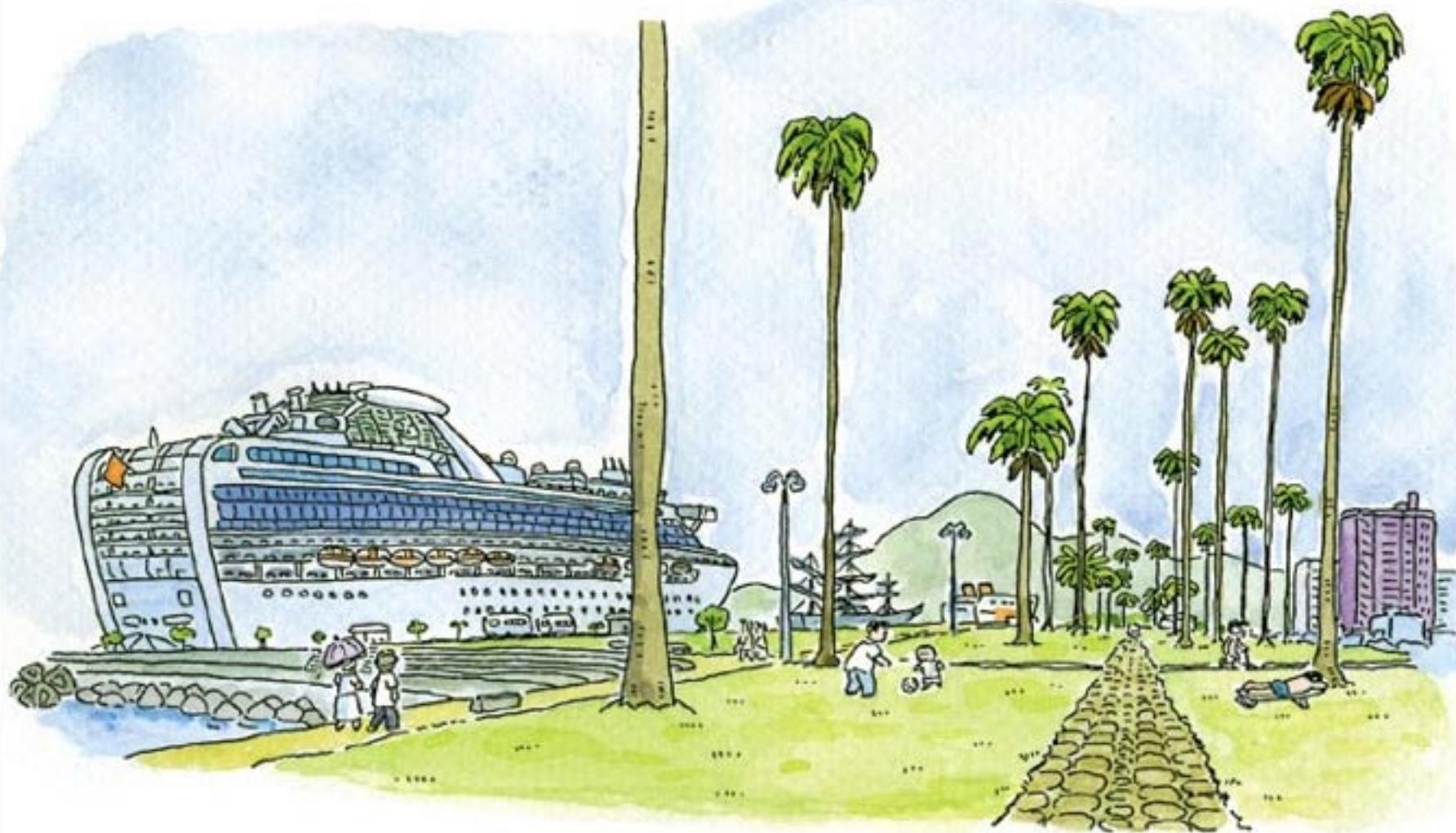
的ヶ浜公園・スパビーチ

夏の「火の海まつり」、冬の「クリスマスHanabiファンタジア」の両花火大会会場。平成6年(1994)にはゴジラも来訪(『ゴジラ対スペースゴジラ』)。ただしゴジラは別府タワーを壊さずに城島高原方向へ素通りしました。市営北浜温泉(テルマス)が隣接。別府湾・高崎山を眺望しながらの屋外健康浴が家族連れに人気。



別府国際観光港

大阪南港を結ぶ「フェリーさんふらわあ」、四国八幡浜を結ぶ「宇和島運輸フェリー」。二つのフェリーが発着する別府の海の玄関口。「さんふらわあ」には「弾丸クルーズ」という、船中連泊往復(目的地0泊)のエコノミープランもあります。少し北寄りの上人が浜埠頭には、時折海外からの大型客船が寄港し、賑わいます。



上人が浜公園

一遍上人が四国を経由して初めて九州に上陸したと云われる場所。現在は海浜砂湯を含む公園になっています。時々大型クルーズ船が寄港しますが、突然大型マンションが出現したのかと勘違いさせられます。この日は、「ダイヤモンド・プリンセス」に加え練習帆船も寄港して、「サンフラワー」と三隻が並びました。



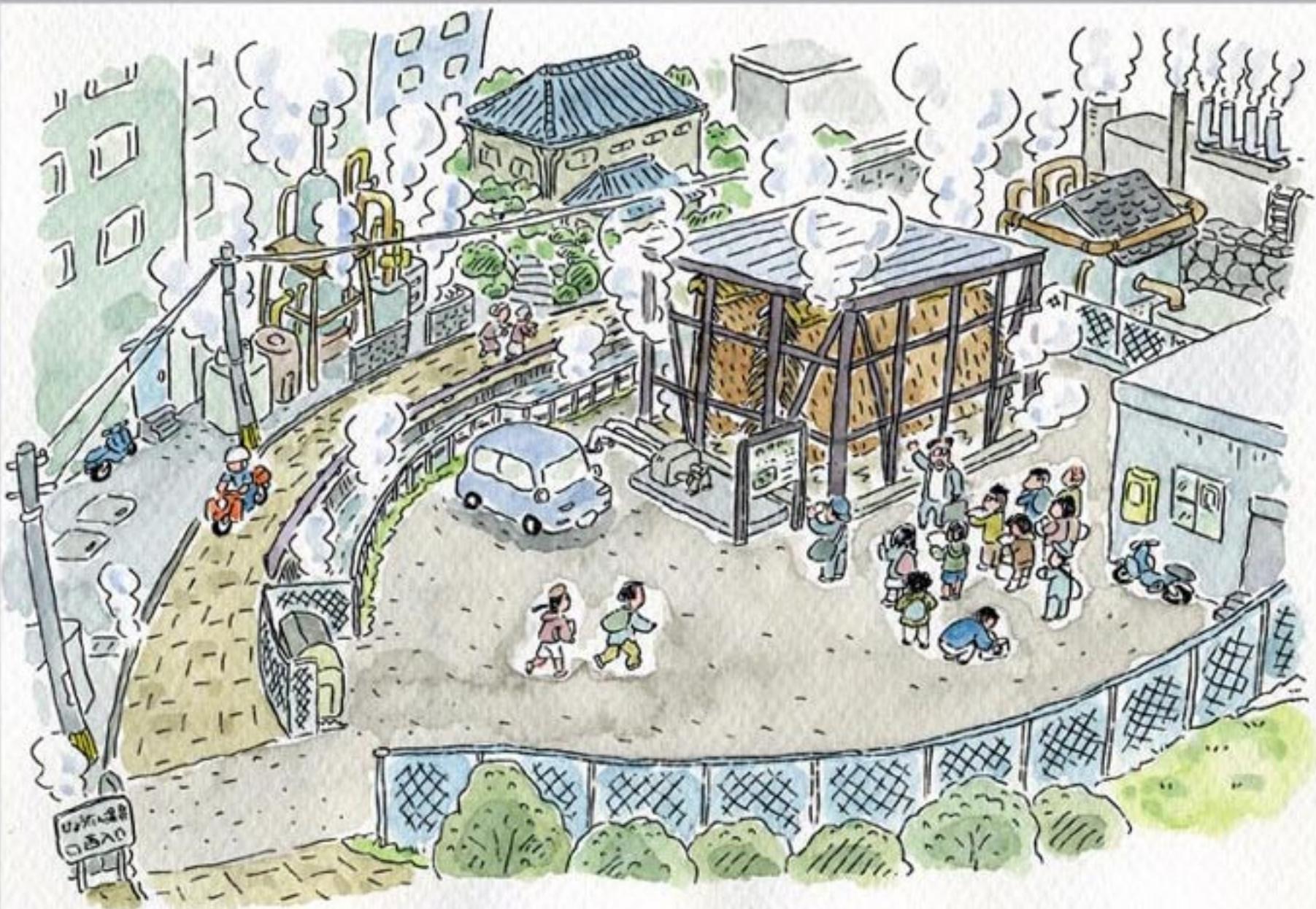
海浜砂湯

その昔、一遍上人が上陸したという言い伝えの「上人ヶ浜」にある別府市営の温泉施設です。昭和61年開業。砂かけ担当の女性が肩の下に丁寧に砂を入れてくれたり、リラックスできる寝姿にしつらえてくれます。砂から上がった時はちょっとだらしない風情ですが、湯船の用意がありますから大丈夫です。



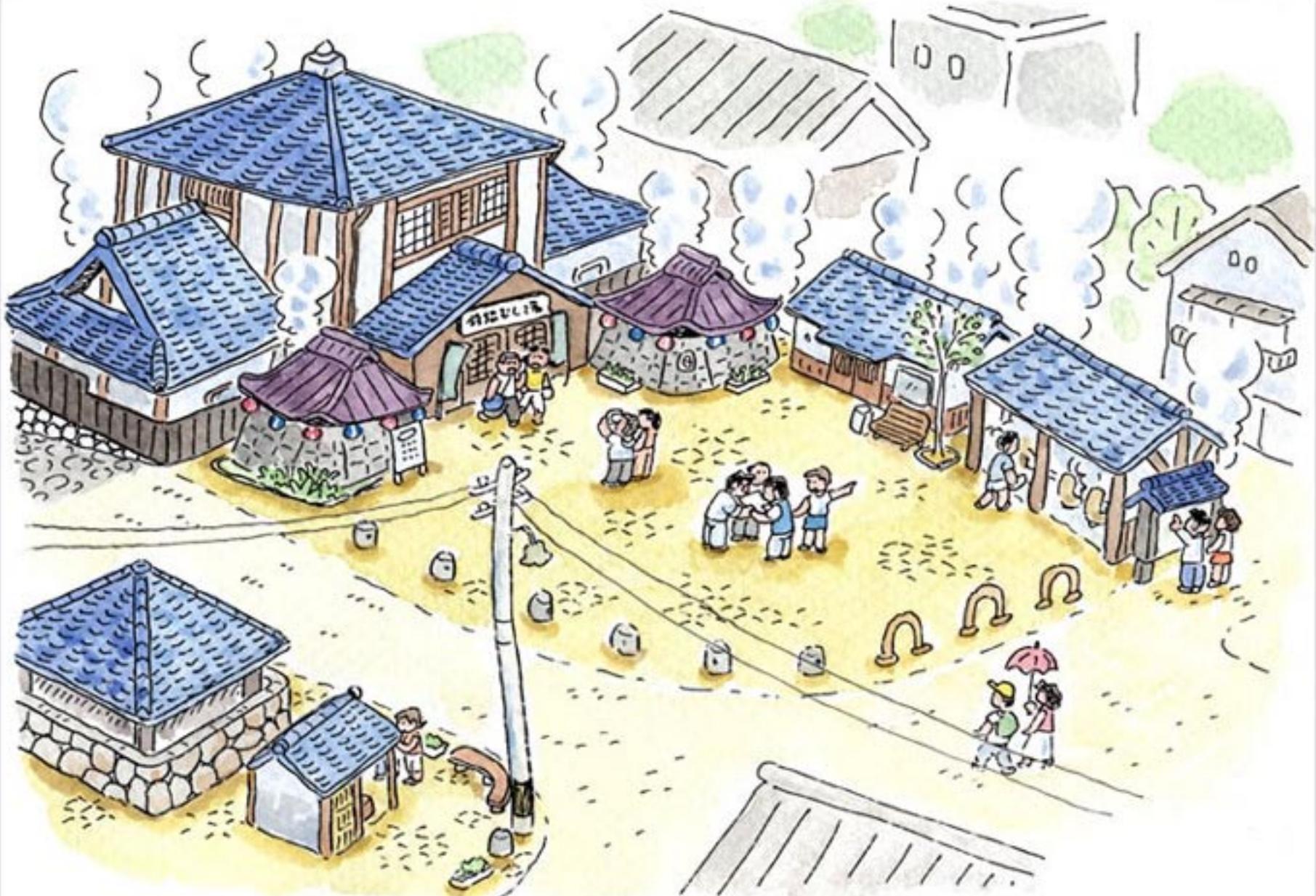
九州横断道起点と日豊本線踏切

国道10号線の「九州横断道路入口」の交差点が熊本から長崎まで続く九州横断道路の大分側の起点。早々に日豊本線の踏切を渡りますが、1時間に2本ほどソニックが走り抜けるものの列車本数は少なく、さほど渋滞することもありません。10月には南下を前に、はつらつと飛行訓練をするツバメの群れが見受けられます。



ひょうたん温泉冷却装置

ひょうたん温泉には、昭和初期に7階建ての展望台ひょうたん閣が建てられ、鉄輪温泉を湯治場から観光地に変身させるきっかけとなりました。熱い温泉を薄めずに冷ますために考えられたのが、塩田からヒントを得たこの装置。地区の自治会運営の温泉でも、お金がかかるのは「お湯代」より「水道代」なんですよ。



鉄輪 むし湯

鉄輪温泉の中心的施設。鎌倉時代に一遍上人が開いたとされます。石室に敷き詰められた石菖(せきしょう)という薬草の上に寝転び“蒸し上げ”られます。昔は隣の渋の湯までお湯に浸かりに走りましたが、今は施設内に浴槽が完備。一遍湯かけ上人、旧鉄輪むし湯跡、無料足蒸しを合わせボケットパークとされています。



ヤング劇場

鉄輪温泉のいでゆ坂に大衆演劇の劇場があります。月替わりでいろいろな劇団が公演を打ちます。前半がお芝居、後半が歌謡ショーという定番プログラム。劇場名とはうらはらにお年寄りのお客さんが多いのです。午後4時に1時からの昼の部がはねたところ、1300円の入場料で確かに皆さん若返っています。



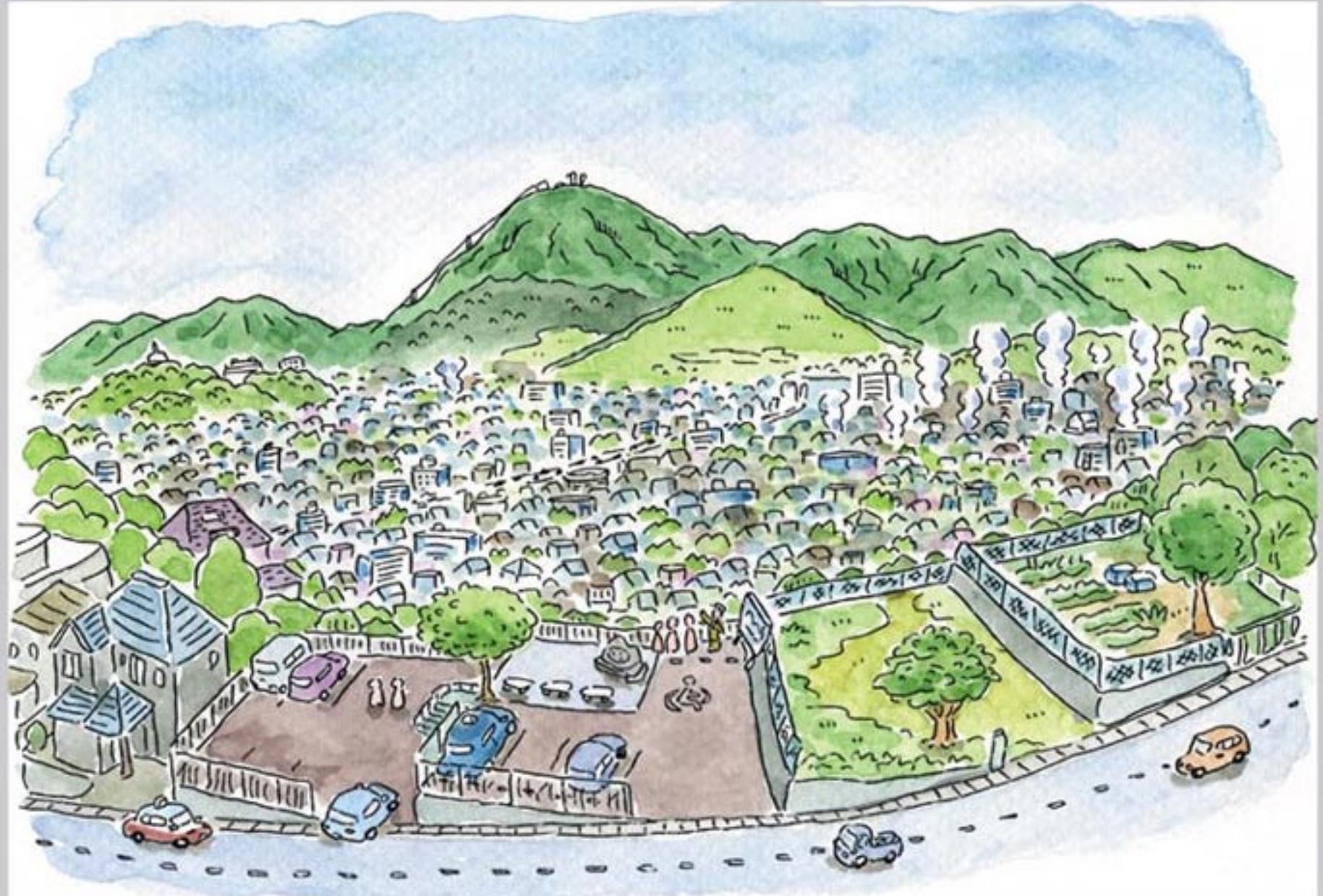
鉄輪地獄蒸し工房

「地獄めぐり」という見物型観光地だった鉄輪地区に、2010年に別府市が開業させた体験型観光施設。食材を選び、地獄蒸し釜使用料を払って蒸し料理に仕上げてもらい食事を楽しむという仕組み。鉄輪温泉は塩分が多いので、ほど良い味付けが施されるのです。待ち時間に別棟の足蒸し、足湯も楽しめます。



九州横断道下り坂

別府に引っ越してきた最初の年賀状に描いたイラストです。鉄輪温泉の海地獄近くから見えるランドスケープが素晴らしいのです。熊本から阿蘇、湯布院を経由した九州横断道はこの坂を一気に下って国道10号線にぶつかります。別府湾を見下ろすと、水平線が驚くほど高い位置にあるのでピックリさせられます。



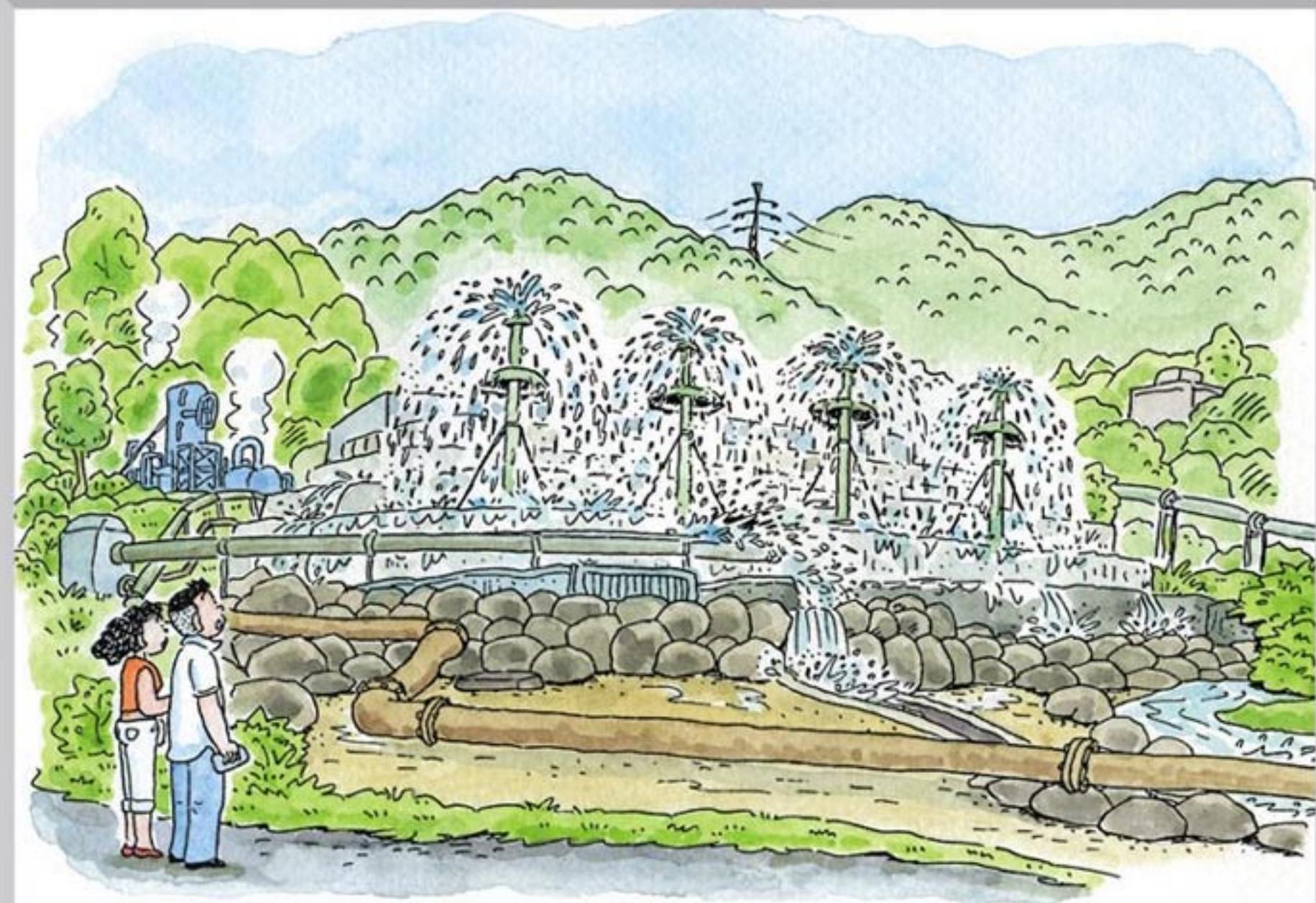
湯けむり展望台

観光バスは来ませんが、観光タクシーは必ず立ち寄るスポット。扇山を中心とした鐵輪の湯けむり、鶴見岳、十文字原など一望できます。NHKが募集した「21世紀に残したい日本の風景」で全国2位に選ばれました（1位は富士山）。設置されている「湯けむりライブカメラ」の動画がインターネットで公開されています。



大 石

別府には鶴見岳の噴火によってもたらされた巨石があちこちに見かけられます。小さめの石は「別府石」と呼ばれ、石垣に使われています。この巨石は桜ヶ丘地区にあるもので、ったくデガイ！ 横にあるのは明治の初期に私費を投じて周辺の道路を整備した加藤新平氏の頌徳碑。最寄りのバス停は、その名も「おおいし（大石）」。



杉乃井ホテル 地熱発電所

杉乃井ホテルの裏手の山の中で見られる光景。1981年に同ホテルの自家発電用として建設された地熱発電所です。さすが別府一の巨大宿泊施設。ホテルの使用電力の半分ほどをこの発電所で自給しているそうです。このすさまじい噴水は使用済み温水を冷却させる仕組み。発電設備自体は上の建物内にあります。



八幡竈門神社

内竈神社とも呼ばれます。仁徳天皇の時代から言い伝えが残るというので歴史は深い。亀川の亀山という山の上に建ち、鳥居越しに別府湾が望めます。石段は鬼が作ったという伝説があったり、開運なで亀が祀られていたり、第一次世界大戦戦勝記念の機雷があったりと、とにかく話題の多い神社です。



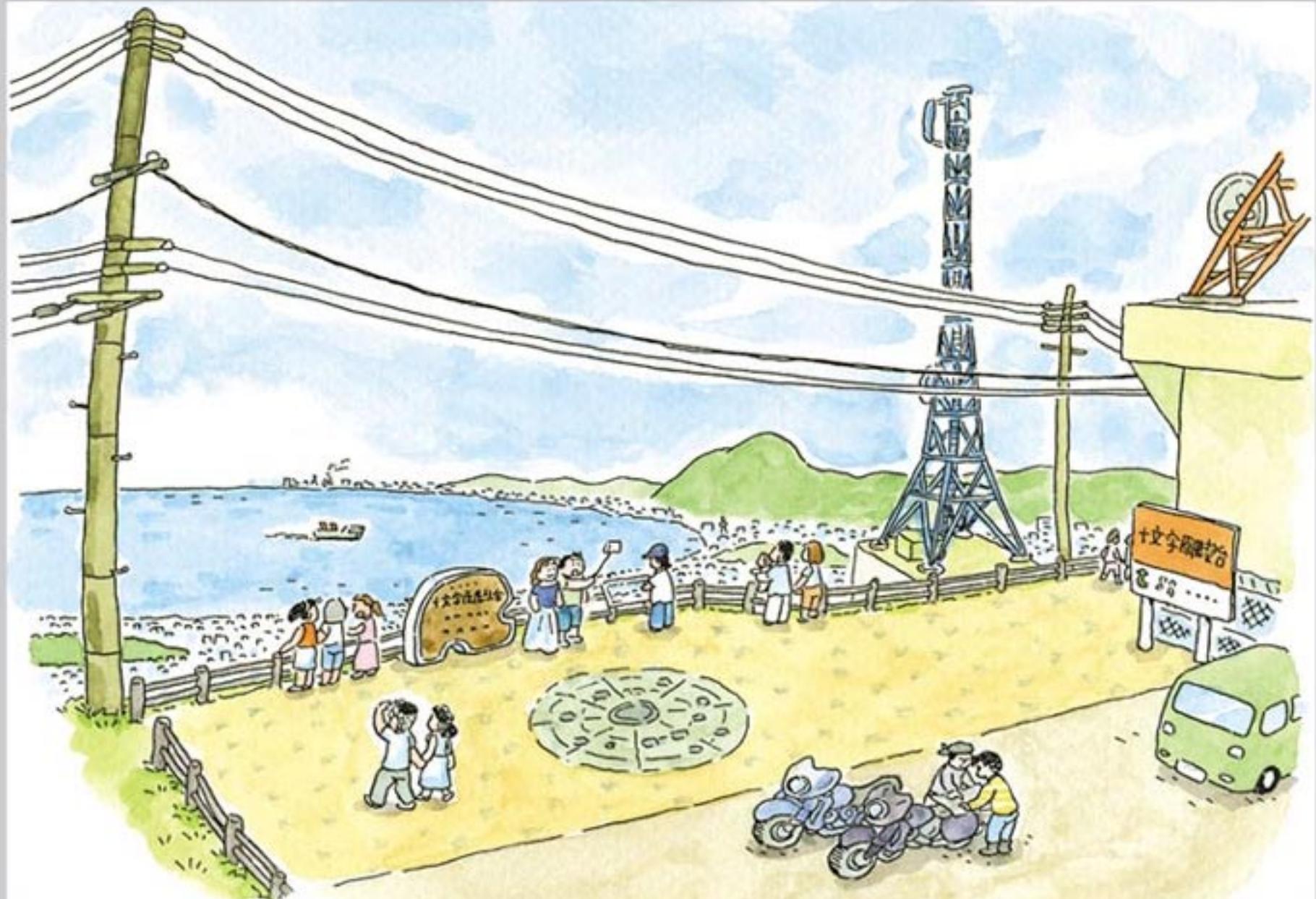
内竈堂面棚田

内成の棚田も有名ですが、内竈の棚田は別府湾と国東半島が同時に一幅の構図に入るので格別です。耕作者の高齢化が進む中、「内竈堂面棚田を再生する会」という団体を立ち上げ、活性化に力を入れていますが、休耕田が増えつつあるのが現状です。まとまった宅地造成も進み、棚田地区に迫りつつあります。



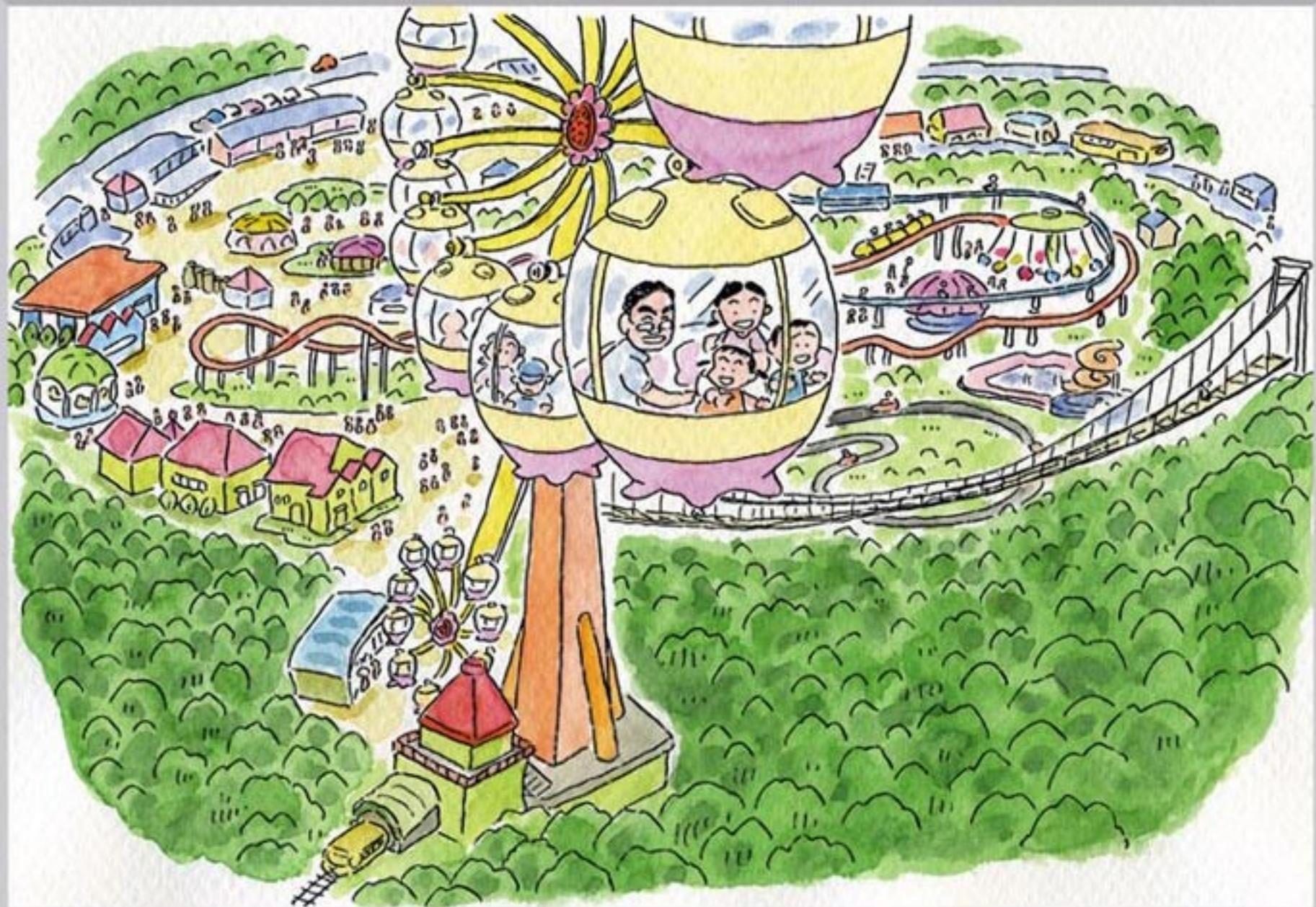
明礬温泉

別府の中では一番標高の高い温泉で、硫黄の匂いが漂います。わらぶき屋根の「湯の花小屋」では鉄明礬石の結晶を抽出しています。東九州道のアーチ橋から別府湾と高崎山が望めるという絶好のスケッチポイント。轔が立っている岡本屋さんでのおススメは「元祖地獄蒸しプリン」と毎日四国から直送される讃岐うどん。



十文字原展望台

明礬温泉からアフリカン・サファリへ抜ける途中、大分高速道と立命館アジア太平洋大学を見下ろす場所にある展望台。別府湾の大眺望を満喫できます。もちろん四国もハッキリ。テレビ塔が四基建ち、別府エリアに電波を発信しています。「日本の夜景100選」に選ばれた、カップルに人気の夜景スポットです。



ラクテンチ

別府が誇るB級テーマパーク。流川通りの突き当りに入口棟があり、そこから急斜面をケーブルカーで登って入園します。経営不振で何度も休園しますが、不死鳥のごとく蘇り子どもたちに夢を与えてくれています。二段回転の観覧車からの眺望も素晴らしい、競馬のように着順を当てる「アヒルの競争」は一番人気です！



神楽女湖の菖蒲

平安時代に湖畔に鶴見岳社の歌舞女（神楽を演じて奉納した巫女）が住んでいたという伝説が神楽女湖の由来。6月には1万5千株といわれる花菖蒲が咲きそろい見事！品種も多彩で栽培技術にも驚かされる。シーズン中は別府駅西口から臨時バスも出る。老人介護施設のレクリエーションポイントにもなっている。



内成棚田之碑

農林水産省選定「日本の棚田百選」にも選ばれた素晴らしいエリアです。田んぼの数は1000枚を超えると言います。以前よりやや休耕田が増えた感は否めませんが、やはり素晴らしい景観です。よくまあ人の手でこれだけのことを！感動するだけでは地域貢献ができないので、無人販売所で野菜を購入します。



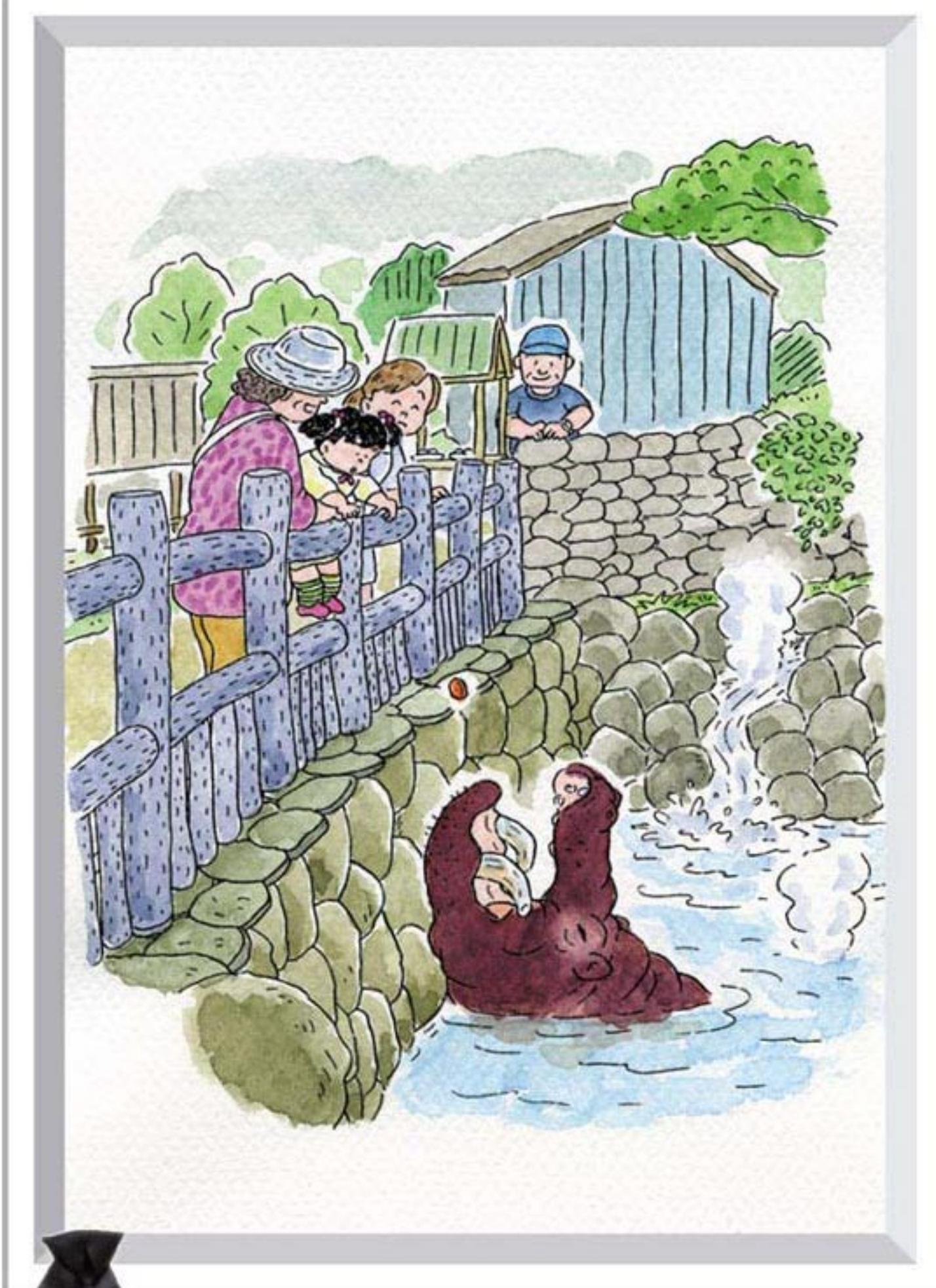
わくど石

別府大学の第二体育館脇にある巨石です。「わくど」というのは、大分方言で「ひきがえる」のこと。姿が似ているので地域の人が注連縄をかけ、祀っています。鶴見岳には、やんちゃな力エルが権現様の命令で知恵を絞って山頂に岩を運び、更生して神様になったという伝説があります。



別府大学鳥瞰

8年間お世話になった別府大学は、小さいけれど心が通うとても「あたたかな」大学です。「真理はわれらを自由にする」という建学の精神もかっこイー！僕なりに意識して「創作系のわれわれには真理は元々用意されてはいない。自由に創造する先にそれぞれの真理が見つかるのだ」と学生に伝えていました。



思い出の昭平くん

別府地獄めぐりは八つの地獄で構成されます。中でも僕のお気に入りは、山地獄のカバの昭平くんでした。平成元年生まれでしたが、2017年7月1日暑さの中突然死したそうです。一皿100円のニンジンを素直に口を開けて受け取ってくれ、たくさんの人を楽しませてくれた。大きな体で天国に召されたことでしょう。

2016年（平成28年）6月24日掲載

出金ひ探し

漫画ミュージアム

☆
124
☆

マンガには、たくさんの情報を分かりやすく伝える力があります。例えばマンガを描く際、物語の舞台となる風景を、写真を参考にリアルに描き込む場合でも、写真そのままであります。必要な部分を省略し、印象づけたい部分だけを強調する。通行人を作者のイメージで書き加えて、その場の雰囲気を演出する。描写を足したり引いたりすることで、より直感的に伝わりやすくなるのです。

絵画にも同様のテクニックは



田代しんたろう「JR別府駅」

田代しんたろう「地獄！極楽！別府スケッチ」展
8月19日まで、漫画ミュージアム6階。肉筆画など18点を展示（常設展観覧料＝一般400円ほかが必要）

ありますが、時間の経過など物語的な要素を織り込むには、線などの記号を用いて、一枚の絵の中でも「時間を動かす」のは、マンガならではの

演出方法です。

北九州市漫画ミュージアム

では現在、別府

大学（大分県別府市）

教授を8年間務め、今

年4月からは客員教授

となられたマンガ家田

代しんたろう先生の作

品を展示しています。別府の風景を描いたスケッチ集ですが、随所にマンガの技法が活用され、温かでユーモラスな仕上がりです。道行く人々の楽しげな表情や、「泉都」とも呼ばれる

温泉観光都市ならではの立ちのぼる湯煙は、マンガでなくては

描けないものです。

田代先生は、高校在学中の1

966年に『月刊漫画ガロ』で

デビューし、早稲田大学進学後

は漫画研究会に所属。ファミリ

ー向け4コマ漫画誌で活躍され

たほか、法律や囲碁や武道などを

マンガで分かりやすく解説す

る入門書も多数手がけていま

す。マンガの“伝える力”を知りつくしたベテラン作家の熟練

の技を、ぜひじっくりとご覧ください。（専門研究員・表智之）